2026年度 第6回（11月）北辰テスト対策 予想問題

国語（制限時間 50分・100点満点）

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

中学三年生の陽菜（ひな）は、合唱コンクールでクラスの伴奏者に選ばれたが、指揮者をつとめる幼なじみの美月（みづき）との息の合わない練習に悩んでいた。

「もう一回お願い。」美月の声が、音楽室に響いた。陽菜はピアノの鍵盤に指を置いたまま、小さくうなずいた。

①また止まってしまうかもしれない、という不安が、指先から体中に広がっていく。伴奏者に選ばれたのは、音楽の先生に勧められたからだった。ピアノは好きだけれど、クラス全員の歌声を支える役目の重さに、陽菜はまだ慣れていなかった。

美月は指揮者として、腕を大きく振り上げる。けれど、陽菜のテンポが微妙にずれるたびに、美月の眉間にしわが寄るのが見えた。

「ごめん、もう一度……」陽菜が言うと、美月は短く「うん」と答えた。その返事の短さが、陽菜の胸にひんやりと刺さった。

放課後の練習が終わり、二人だけが音楽室に残った。美月は楽譜を閉じながら、陽菜のほうを見ずに言った。「ね、本番までもう二週間しかないよ。」

「わかってる。」陽菜はうつむいた。わかっているからこそ、苦しかった。

②陽菜なら絶対できるって、先生も言ってたじゃん。なんで本番が近づくほど下手になってる気がするの。」その言葉に、陽菜は思わず顔を上げた。励ましのつもりなのか、それとも本当にいらだっているのか、美月の表情からは読み取れなかった。

「……美月だって、指揮、最初のころよりずっと厳しくなった。」陽菜がそう言うと、美月は少し驚いた顔をした。

二人は、しばらく何も言わずに向かい合っていた。やがて、美月がぽつりと言った。「③わたし、指揮者になってから、クラスのみんなの歌が、自分の腕の振り方ひとつで変わるのが、こわくなったの。」

陽菜は、その言葉に驚いた。美月はいつも堂々と腕を振っていて、こわがっているなんて、少しも想像していなかった。

「わたしも同じ。鍵盤を押すたびに、みんなの声が止まっちゃうんじゃないかって、こわい。」

「……そっか。」美月の声から、さっきまでの硬さが少し抜けていた。「お互い、こわいまま、本番まで行くしかないのかな。」

「こわいけど。」陽菜は、鍵盤にもう一度指を置いた。④その手は、さっきよりも少しだけ落ち着いていた。「一緒にこわいなら、なんとかなる気がする。」

美月は笑って、タクトを構え直した。「じゃあ、もう一回。今度は、わたしも陽菜のテンポに合わせるから。」

その日の最後の一回は、今までで一番、ピアノと指揮がぴたりと合っていた。⑤音楽室を出るとき、陽菜の足取りは、朝よりずっと軽かった。

（注）タクト……指揮者が指揮をするときに使う、小さな棒。

問1 ①「また止まってしまうかもしれない、という不安が、指先から体中に広がっていく」とありますが、このときの陽菜の様子を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア伴奏者に選ばれたことを後悔し、今すぐにでも役割を代わってほしいと思っている。
イクラス全員の歌声を支える役割の重さにまだ慣れておらず、演奏の失敗を恐れている。
ウ美月の指揮が下手なせいで、自分の演奏がうまくいかないのだと感じている。
エピアノの演奏技術そのものに自信がなく、基礎から練習し直したいと思っている。

問2 ②「陽菜なら絶対できるって、先生も言ってたじゃん。なんで本番が近づくほど下手になってる気がするの。」とありますが、この言葉を聞いた陽菜の様子を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア美月に見捨てられたと感じ、二人の友情が終わってしまったと思っている。
イ美月の言葉が励ましなのか苛立ちなのか判断がつかず、戸惑っている。
ウ美月の言うとおり自分が下手になっていると認め、すぐに練習をやめたいと思っている。
エ美月の発言に腹を立て、指揮のやり方こそ問題だと反論しようとしている。

問3 ③「わたし、指揮者になってから、クラスのみんなの歌が、自分の腕の振り方ひとつで変わるのが、こわくなったの。」とありますが、美月はどのような思いでこの言葉を言いましたか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、責任、こわいの二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（6点）

問4 ④「その手は、さっきよりも少しだけ落ち着いていた」とありますが、このときの陽菜の心情を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア美月も自分と同じように不安を抱えていることを知り、一人で抱え込まなくてもよいと感じている。
イ美月に弱みを見せてしまったことを後悔し、強がらなければと思っている。
ウ本番までの時間が足りないという焦りが消え、練習そのものが不要だと感じている。
エ美月が指揮のやり方を変えると約束したことで、自分の責任がなくなったと感じている。

問5 ⑤「音楽室を出るとき、陽菜の足取りは、朝よりずっと軽かった」とありますが、このときの陽菜の心情を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア美月と気持ちを分かち合い、不安を抱えたままでも二人で進んでいけると感じ、気持ちが軽くなっている。
イもう不安を感じることは一切なくなり、本番の成功を確信している。
ウ美月が自分に合わせてくれると約束したので、もう練習をしなくてもよいと安心している。
エ伴奏者としての重い責任から解放され、気楽な気持ちで本番を迎えられると思っている。

問6 本文の内容や表現について述べた文として適切でないものを、次のア～オの中からすべて選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア陽菜と美月それぞれの不安を、会話のやり取りを通して明らかにする構成になっている。

イ「指先から体中に広がっていく」という表現によって、陽菜の不安が身体感覚として描かれている。

ウ本文は美月の視点から語られており、陽菜の心情は美月の推測によって描かれている。

エ「お互い、こわいまま」という美月の言葉と、「一緒にこわいなら」という陽菜の言葉が対応し、二人の関係の変化を印象づけている。

オ本文の大部分は、二人が小学生のころの思い出を回想する場面で構成されている。

2

問1 ⑴ 次の――部の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に改めなさい。（各2点）

事件の経緯を克明に記録する。（読み）

問1 ⑵（各2点） 夏の雨が乾いた大地を潤す。（読み）

問1 ⑶（各2点） 絶滅のおそれがある生物をホゴする。（書き）

問1 ⑷（各2点） 提案された計画をケントウする。（書き）

問2 ⑴ 次の⑴・⑵の――部のかたかなを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとのア～エの中からそれぞれ一つ選び、その記号を答えなさい。（各2点）

事件の真偽をカクニンする。

ア彼は資カクを取得した。

イカク地で祭りが開かれる。

ウ問題のカクシンに迫る。

エ証言のカクジツ性を検証する。

問2 ⑵（2点） 新しい薬をセイゾウする工場。

ア工場で機械の部品をセイサクする。

イ試験のセイセキが伸びる。

ウ国会でセイサクを審議する。

エ身だしなみにセイケツを心がける。

問3 次の文章中の――部ア～カの動詞の中から、活用形が終止形であるものをすべて選び、その記号を答えなさい。（3点）

「今日は朝から雨が降る。弟は傘を忘れて家を出た。母が気づき、後から傘を届けた。弟は喜び、友人にも話すそうだ。もし明日晴れたら、自転車で学校へ行こう。」

――部：ア 降る／イ 忘れ／ウ 気づき／エ 届け／オ 話す／カ 行こう

問4 次のア～エの――部の中から、品詞が連体詞であるものを一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア小さな子どもが笑っている。
イ小さい声で話す。
ウ大きい声であいさつする。
エ美しい景色が広がる。

問5 次の文の空欄にあてはまることわざとして最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

コツコツと毎日少しずつ練習を続けている後輩に、先輩が「［　　］よ」と声をかけた。

ア石橋をたたいて渡る
イ塵も積もれば山となる
ウ二階から目薬
エ棚から牡丹餅

問6 次の文の空欄にあてはまる慣用句として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（2点）

初めての大会で緊張していたが、仲間の声援で「［　　］」ことができた。

ア肩を落とす
イ腹をくくる
ウ息をのむ
エ気を取り直す

問7 ⑴ N中学校の3年1組では、学級会で「卒業プロジェクト」について話し合っています。次の【話し合いの様子】を読み、あとの⑴・⑵に答えなさい。

【話し合いの様子】

司会「今日は卒業プロジェクトの内容について話し合います。まず、鈴木さんから提案をお願いします。」

鈴木「はい。わたしは、思い出の写真を集めて一冊のアルバムにする企画を提案します。クラス全員の写真を使って、文集のように仕上げたいと思います。」

田中「写真を集めるのはいいと思うけど、全員分をまとめるのは時間がかかりそうだね。」

鈴木「たしかに時間はかかりますが、グループに分けて作業すれば、二週間ほどで完成できると思います。」

司会「なるほど。先生にもこの企画について〔　Ⅰ　〕たいのですが、よろしいでしょうか。」

先生「いいですよ。ぜひ聞かせてください。」

田中「先生の意見も聞いてから、もう一度みんなで決めましょう。」

⑴ 【話し合いの様子】の空欄〔Ⅰ〕にあてはまる、先生に対する言葉として最も適切な敬語を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア 申し上げ
イ 伺い
ウ おっしゃり
エ ご覧になり

問7 ⑵ 司会は、この話し合いでどのような工夫をしていますか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（2点）

ア 鈴木さんの提案に対する田中さんの心配を受けて、先生の意見を聞く場を設けようとしている。
イ 鈴木さんの提案をそのまま採用し、すぐに作業を始めるよう指示している。
ウ 田中さんの発言を無視して、鈴木さんの提案を優先させている。
エ 先生の意見を聞かずに、独断で来週の予定を決めている。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

「雑草」と聞くと、庭や畑で邪魔者として抜き取られる植物を思い浮かべる人が多いだろう。実際、雑草という言葉自体に、すでに「望まれていない植物」という評価が込められている。

ところが、生態学の視点から見ると、雑草と呼ばれる植物たちの多くは、土地の環境を整える重要な役割を担っている。たとえば、裸地（植物のない土）ができると、まず真っ先に生えてくるのが雑草である。その根は、むき出しの土をしっかりと押さえ、雨による土の流出を防ぐ。

①さらに、雑草の中には、空気中の窒素を土に取り込む力を持つ種類もある。マメ科の雑草の根には、根粒菌という細菌が共生しており、植物の成長に欠かせない窒素を土壌に供給している。こうして豊かになった土は、やがて他の植物が育つための土台となる。

雑草が咲かせる小さな花も、見過ごせない役割を持つ。畑の周りに生える雑草の花には、ミツバチやチョウなどの昆虫が集まる。②これらの昆虫は、同時に近くの農作物の花も訪れ、花粉を運

ぶ手伝いをしている。雑草を完全に取り除いてしまうと、昆虫が立ち寄る場所が減り、結果として農作物の実りにも影響が出ることがある。

もちろん、雑草を放置しておけばよいという話ではない。作物の生長に必要な光や水分、養分を奪ってしまう雑草は、やはり適切に管理する必要がある。③問題は、「雑草＝すべて取り除くべき邪魔者」という単純な見方で終わらせてしまうことだ。

近年、畑の一部にわざと雑草を残す「緑の緩衝地帯」を設け、昆虫の通り道として活用する農家も増えている。これは、雑草を敵としてではなく、農地という環境の一部として付き合っていこうとする試みである。

④人間にとって都合のよい植物だけを残し、都合の悪い植物をすべて取り除こうとする発想では、見えてこないものがある。雑草もまた、土を育て、虫を呼び、生き物同士のつながりを支えている、生態系の一員なのである。

「雑草」という一つの名前でくくられている植物たちの働きに目を向けることは、身近な自然をより深く理解するための、小さな、しかし確かな一歩になるはずだ。

（注）根粒菌（こんりゅうきん）……マメ科の植物の根に共生し、空気中の窒素を取り込んで植物に供給する細菌。

問1 ①「さらに、雑草の中には、空気中の窒素を土に取り込む力を持つ種類もある」とありますが、これはどのようなしくみによるものですか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア 雑草の葉が空気中の窒素を直接吸収し、光合成によって養分に変える。
イ マメ科の雑草の根に共生する根粒菌が、空気中の窒素を土壌に供給する。
ウ 雑草の根が腐ることで、土の中に窒素を含む肥料が自然に作られる。
エ 雑草が他の植物から養分を奪い取り、それを窒素として土に戻す。

問2 ②「これらの昆虫は、同時に近くの農作物の花も訪れ、花粉を運ぶ手伝いをしている」とありますが、このことから筆者が述べている、雑草を完全に取り除くことの問題点として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア 昆虫が畑に立ち寄る場所が減り、農作物の花粉を運ぶ働きが弱まるおそれがあること。
イ 昆虫のえさとなる雑草がなくなり、畑の周辺から昆虫が完全にいなくなってしまうこと。
ウ 雑草を取り除く作業自体に多くの時間がかかり、農作物の管理が遅れてしまうこと。
エ 雑草がなくなることで、土の中の窒素が急激に失われ、作物が育たなくなること。

問3 ③「問題は、『雑草＝すべて取り除くべき邪魔者』という単純な見方で終わらせてしまうことだ」とありますが、筆者はどういうことを問題だと述べていますか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、土、昆虫の二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（6点）

問4 ④「人間にとって都合のよい植物だけを残し、都合の悪い植物をすべて取り除こうとする発想では、見えてこないものがある」とありますが、この発想では見えてこないものとは何ですか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア雑草が土を育て、昆虫を呼び、生き物同士のつながりを支えているという、生態系の一員としての役割。

イ雑草を取り除く作業にかかる時間と労力の大きさ。

ウ雑草が農作物の生長に必要な光や水分を奪ってしまうという事実。

エ雑草の種類によって、生えやすい土地の条件が異なるということ。

問5 本文の構成や表現について述べた文として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア「雑草」という言葉に対する一般的な思い込みを示し、それをくつがえす形で論を展開している。

イ実験によって得られた数値のデータを示しながら、主張の正しさを科学的に証明している。

ウ根粒菌や昆虫の例を挙げて、雑草が果たしている具体的な役割をわかりやすく説明している。

エ雑草の管理が不要だと述べているのではなく、見方を広げることの大切さを述べている。

問6 本文の内容として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア畑のまわりの雑草をすべて残しておけば、農作物の収穫量は必ず増える。

イ雑草は、土を育てたり昆虫を呼んだりする役割を持つ一方で、農作物の養分を奪うこともあるため、敵か味方かを決めつけず付き合い方を考える必要がある。

ウ雑草は昆虫にとって有害な存在であり、畑から完全に取り除くことが望ましい。

エ雑草の根に共生する根粒菌は、どの植物の根にも共生し、土をゆたかにする。

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（カッコ内は口語訳です。）（16点）

昔、ある里に、隣り合ひて住む二人の農夫ありけり。一人は太郎、一人は次郎と言ひける。太郎が畑の端より、大きなる瓢（ひさご）の蔓（つる）一つ生ひ出でて、次郎が畑の方まで這ひ渡りぬ。（昔、ある村里に、隣どうしで住む二人の農夫がいた。一人は太郎、一人は次郎といった。太郎の畑のはしから、大きな瓢（ひょうたん）の蔓が一本生えてきて、次郎の畑の方まで伸びていった。）

秋になりて、その蔓に、大きなる瓢、三つなりにけり。一つは太郎が畑の中に、一つは次郎が畑の中に、一つは境の上になりたり。太郎、「この蔓はもと我が畑より生ひたれば、瓢はみな我がものなり」と言ふ。次郎、「さることなし。我が畑の中になりたる瓢は、我がものなるべし」と言ひて、①争ひやまず。（秋になって、その蔓に、大きな瓢が三つできた。一つは太郎の畑の中に、一つは次郎の畑の中に、一つは境の上にできた。太郎は、「この蔓はもともと自分の畑から生えたのだから、瓢はすべて自分のものだ」と言う。次郎は、「そんなことはない。自分の畑の中にできた瓢は、自分のものであるはずだ」と言って、争いがやまない。）

果ては、里の長（おさ）のもとに至りて、事の由を申す。長、しばし思案して、②「この蔓の根は、いづれの畑にありや」と問ふ。二人、「根は太郎が畑の中にあり」と答ふ。（とうとう、村の長のところへ行って、事情を申し出た。長は、しばらく考えて、「この蔓の根は、どちらの畑にあるのか」と尋ねた。二人は、「根は太郎の畑の中にあります」と答えた。）

長、うなづきて言はく、「③根の養ひあれば、蔓は伸び、実はなるなり。されば、瓢三つながら、根をやしなひたる太郎がものと言ふべし。ただし、次郎が畑の土も、蔓の這ひ渡る道となりて、実を結ぶ助けとなりたれば、次郎にも瓢一つを分かつべし」とて、太郎に瓢二つ、次郎に瓢一つを取らせけり。（長はうなずいて言った。「根が養分を与えるからこそ、蔓は伸び、実ができるのだ。だから、瓢三つとも、根を養った太郎のものと言うべきだ。ただし、次郎の畑の土も、蔓が這い渡る道となって、実を結ぶ助けとなったのだから、次郎にも瓢を一つ分けるべきだ」と言って、太郎に瓢二つ、次郎に瓢一つを取らせた。）

太郎、次郎、ともにこの定めに従ひて、後は争ふことなかりけり。里人、このことを聞きて、「長の定め、いみじくかしこし」とて、ほめけり。（太郎も次郎も、この裁定に従って、その後は争うことがなかった。村人たちは、このことを聞いて、「長の裁定は、たいへん賢い」と言って、ほめた。）

④一つのものを、もとより我がものと思ひ定めて争ふよりも、そのものがいかにして出で来たるかを問ひ尋ぬることこそ、まことの知恵なれ、と語り伝へたり。（一つの物を、もともと自分の物だと決めつけて争うよりも、その物がどのようにして生まれたのかを問いただすことこそが、本当の知恵である、と語り伝えられている。）

（注）里の長（おさ）……村里をまとめ治める役の人。　瓢（ひさご）……ひょうたん。実の中をくり抜いて器にすることもある。

問1 ①「争ひやまず」を、現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。（4点）

問2 ②「『この蔓の根は、いづれの畑にありや』と問ふ」とありますが、長がこのように尋ねたのはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア　蔓の根がある場所によって、太郎と次郎のどちらが正しいかを、すぐに決めようとしたから。

イ　蔓がどこから生まれ、育っているのかを確かめることで、瓢の実の所有を判断する手がかりを得ようとしたから。

ウ　根の場所を確かめれば、どちらがうそをついているかが、すぐにわかると思ったから。

エ　瓢の実を公平に分けるためには、まず蔓の長さを測る必要があると考えたから。

問3 長が③のように判断した理由を次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、現代語で十字以上、二十字以内で書きなさい。（4点）

「瓢の実ができたのは、［　10字～20字　］からだと判断したため。」

問４ ④の部分で語り伝えられている教えとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（４点）

ア争いが起きたときは、声の大きい者の言い分を信じるのがよい。

イ一つの物を最初から自分の物だと決めつけて争うよりも、その物がどのようにして生まれたのかを問うことこそ、本当の知恵である。

ウ争いを早く終わらせるためには、物を公平に半分ずつに分けるのが最もよい方法である。

エ隣人と争うことになったら、村の長にすべてを任せ、自分では何も考えないほうがよい。

（以上で問題は終わりです。）